

横山ゆずり作 「敵対心④ 敵意を超えるもの」

男子1 佐々木君 1 票。もう 1 つ佐々木君。次は高村君。山本さん、佐々木君。以上です。これで、後期のホームルーム委員長は佐々木君。副委員長は山本さんに決めました。

一同 (拍手。ガヤ)

先生 よし。それじゃ新しい委員の 2 人、挨拶しろ。

佐々木真一 はい。えー、今度の選挙で、委員長に選ばれました。高校生活ももう少しで終わりですが、クラスをまとめていくために、責任を持って…。(FO)

ナレーション ここは青春高校。3 年 B 組では、新しいホームルーム委員の選挙があったようです。

先生 佐々木と山本は、明日、委員長会議があるから、忘れずに出席するように。では今日はこれで終わる。

男子1 起立。礼！

一同 (「さようなら」ほか、ガヤ)

男子2 よう、高村、惜しかったな。もう少しでお前が委員長だったのによ。俺、お前に投票したんだぜ。

高村悟 バカ言え。3 年の 2 学期にもなって委員長やるほど、俺はお人好しじゃねえよ。委員長なんて名ばかりで、クラスの小間使いみたいなもんさ。(わざとらしく陰険に)もともと、内申書にはちゃんと載るから、受験のときはトクだよなあ。

山本あずさ ちょっと高村君。佐々木君に聞こえるわよ。

高村 聞こえたって構やしねえよ。さて、説教される前に退散するか。

効果音 (ドアの開く音)

山本 佐々木君、なんか一言 言ってやんなさいよ。頭…ないの？

佐々木 ……。

ナレーション 佐々木君は何も言いませんでした。今、自分が言い返したところで、高村君といがみ合うだけだと分かっていたからです。そして次の日の放課後――。

高村(モノローグ) (鼻歌を歌いながらやってくる)面接が長引いてすっかり遅くなっちゃった。お、もう 5 時か。

効果音 (教室のドアを開ける)

高村 佐々木…。お前、まだ残ってたのか。何やってんだ、今ごろまで？

佐々木 ああ、今日、委員長会議があつてね。それで決まったことを掲示しようと思って。

高村 そんなことしたって誰も見やしないよ。喜ぶのは先公だけさ。お前、そんなにまで点数稼ごたいのかよ。いい子ぶるんじゃねえよ！

ナレーション 高村君も、ここまで言うと、さすがに自分の言った言葉にハッとしてしまいました。しかし、非難されても佐々木君は高村君の顔をじっと見つめ、ただ黙っているのです。

音楽 (ブリッジ)

ナレーション それから何日かたちました。高村君はちょっとした風邪をこじらせて、ここ 2、3 日、学校を休んでいます。

高村(モノローグ) あ～あ、今ごろみんな何してるかなあ。授業、ずいぶん進んじやっただろうなあ。

高村の母 (階下から) 悟～！ お客さんよ。お見舞いに来てくださったって。

高村 うん、上がってもらって。(モノローグ)見舞いなんて、誰だろうな。

効果音 (ノック音)

高村 あ、どうぞ。

佐々木 やあ、調子はどうだい？

高村 (驚いて)佐々木、お前、どうして…？

佐々木 そんなに驚くなよ。具合まだ悪いのか？ みんな心配してるぜ。

高村 なんだ、またホームルーム委員長としてのお仕事で見舞いに来たのかよ。ありがたいことだな。

佐々木 君にはだいたい嫌われたもんだな。俺がいると、また熱が出そうだからもう帰るよ。あ、これ。ヒマがあったら読んでみてくれ。それじゃあ。

ナレーション と言って、佐々木君は一通の封筒を置いて帰っていきました。

高村(モノローグ) あいつ、この間俺の言ったことを一言も責めなかった…。チェ、一人で悟りきった顔しやがって。

効果音 (封を切る音)

高村 「こんなことを書くとまた君に「偽善者だ」と言われてしまいそうですが、…」(FO)

ナレーション その手紙には、クラス委員としての佐々木君の考えや、先日の高村君の忠告、と言うより非難に対することなどが事細かに書かれてありました。高村君にしてみれば、事あるごとに反発してきた自分に恨みを言うのでなく、むしろ好意的に接してくる佐々木君の気持ちが、不思議でならないのでした。

高村 「僕だって一人の人間だから、(佐々木の声に)腹が立ったり、怒りを覚えることはある。でも僕が、その気持ちを抑えていることができるとすれば、それは僕が信じているイエス・キリストのお陰です。」

高村(モノローグ) イエス・キリスト…？ あいつ、クリスチャンだったのか。クリスチャンだから、俺を赦^{ゆる}せるって言うのか？ なぜだ?!

<完>